

2012年
7
月号



ワークショップ開催!

ワークショップ・相談会を開催

綾里地区復興委員会では、集落ごとの具体的な復興まちづくり計画づくりに向けて、住民のみなさんの綾里に関する要望やアイデアなどを集めるために、6月24日にワークショップ(復興のための話し合いです)を開催しました。50名近い地域のみなさまにご来場いただき、活発な意見交換を行うことが出来ました。ご協力をいただいたみなさま、ありがとうございました。

会場は綾姫ホールには、綾里地区の2000分の1サイズの地形模型・田浜地区の500分の1サイズの模型や、港・野形・岩崎・宮野・石浜・田浜を中心とした地区の巨大な地図、復興委員会のこれまでの活動や大船渡市の復興計画の中の土地利用方針などをまとめたパネルを展示しました。

そのなかでも、巨大地図は縦7メートル、横4メートルもありました。綾姫ホールに来ていただいた住民の皆さんにはスリッパを脱いでもらって、地図の上を歩き回りながら課題点・資源などをみつけ、それら要望や意見を付箋に書いて貼っていただきました。書いていただいた要望や意見を次のページ以降にまとめましたので、是非ご覧下さい。



また付箋に書かれた意見をもとに住民の皆さまの活発な議論も交わされました。大きな地図では、議論の中心となる場所を囲んで話し合うことが出来ました。たとえば、防潮堤についての話、避難路についての話、漁業を中心とした産業に関する話、高台移転に関する話などが出ました。

同時に開催された相談会では、綾里の住民の皆様との復興に関するご相談に対し、災害復興まちづくり支援機構のメンバーが意見を出しました。この支援機構は建築士・土地鑑定士など各分野の専門家から構成されていて、移転や土地利用などの疑問に対し、専門的な立場からアドバイスなどサポートを行っています。

今回のワークショップでは多くのお考えやアイデアを出していただくことができました。今後は、綾里地区復興委員会に設けられた部会で7、8月に具体的な「復興まちづくり計画」の検討を進めていきます。ワークショップで得られた要望やアイデア、相談事項などを活かして進めていきたいと考えています。

小石浜部会を開催しました

7月8日に小石浜地区公民館にて小石浜地区の復興計画について話し合う部会を行いました。

小石浜地区では既存の防潮堤をかさ上げするにあたっての道路・景観などや、関する課題について話し合いを行いました。

部会では、浸水域内から外(安全な場所)に逃げるために必要な時間などのくらい掛かるのかを、色鉛筆を使っ

て分かりやすく地図に表す避難地形時間地図(通称・逃げ地図)づくりを行い、地域内の道路の安全性や利便性を確かめながら議論を行いました。

小石浜部会では7月から8月にかけて、復興をはじめ福祉や漁業に関する様々な課題についてさらに議論するために部会を開催して、小石浜地区としての復興に関する要望をとりまとめていきます。



地図と色鉛筆を使って避難にかかる時間や港に出るまでの時間について確かめました。

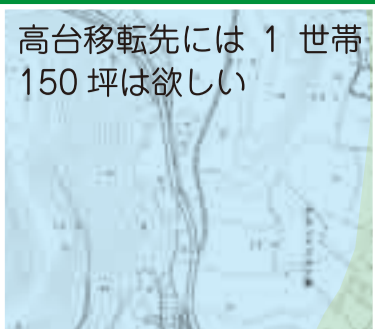
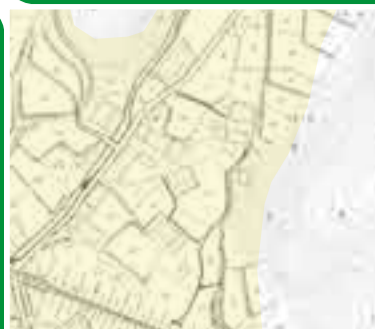
A

B

C

D

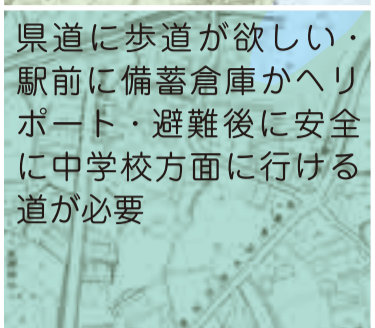
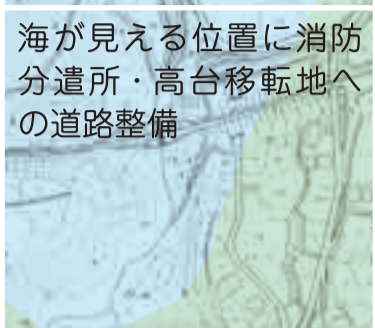
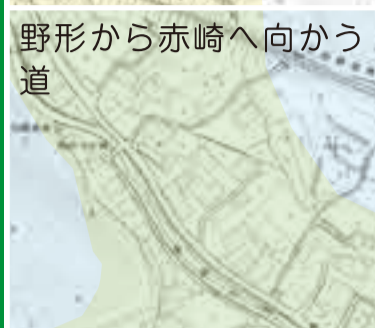
1



高台移転先には 1 世帯
150 坪は欲しい

側溝が欲しい

2

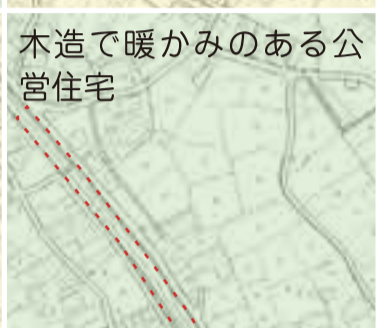


野形から赤崎へ向かう
道

海が見える位置に消防
分遣所・高台移転地へ
の道路整備

県道に歩道が欲しい・
駅前には備蓄倉庫かヘリ
ポート・避難後に安全
に中学校方面に行ける
道が必要

3

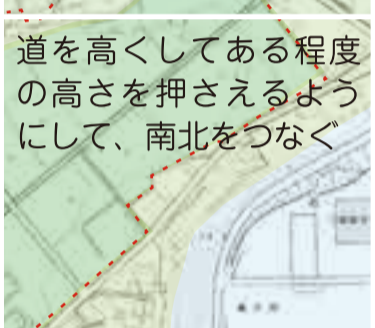
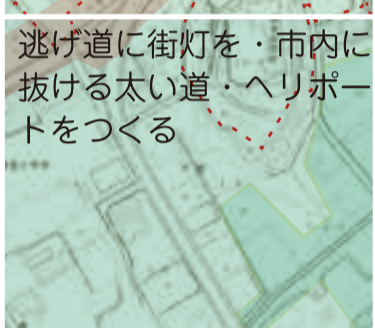


木造で暖かみのある公
営住宅

駐在所と海の距離
歩きやすい避難道

商業店舗は現状で十分

4

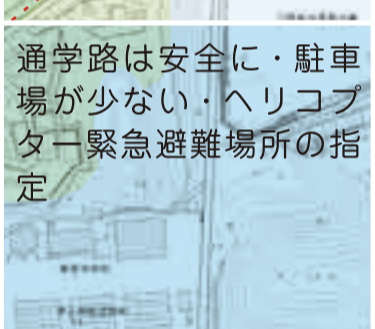
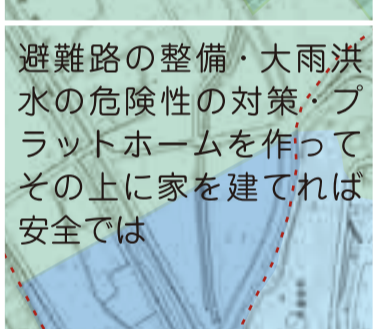
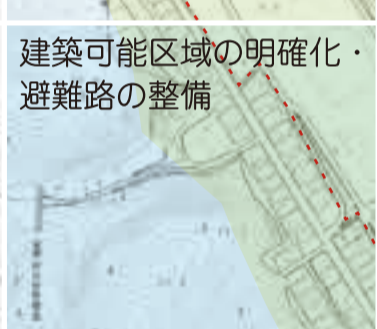


新しい綾里の中心

逃げ道に街灯を・市内に
抜ける太い道・ヘリポ
ートをつくる

道を高くしてある程度
の高さを押さえるよう
にして、南北をつなぐ

5



建築可能区域の明確化・
避難路の整備

避難路の整備・大雨洪
水の危険性の対策・プ
ラットホームを作って
その上に家を建てれば
安全では

通学路は安全に・駐車
場が少ない・ヘリコプ
ター緊急避難場所の指
定

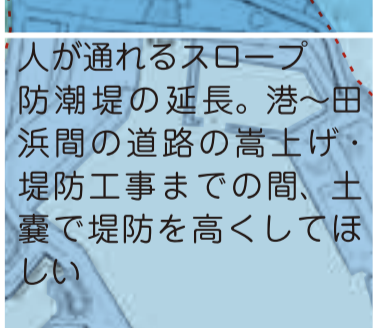
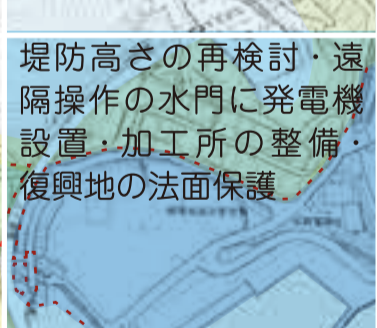
6



復興地前面道路の拡張

復興地前面道路の拡張

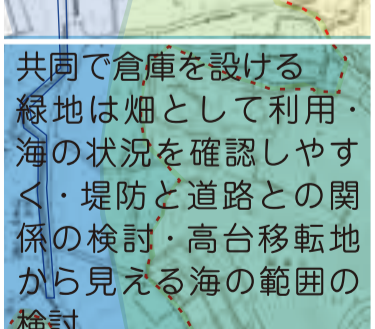
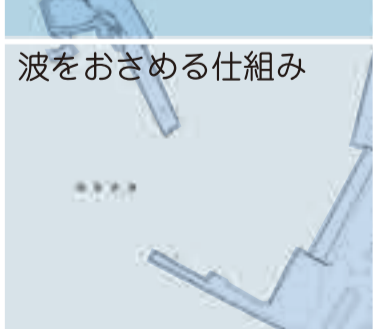
7



堤防高さの再検討・遠
隔操作の水門に発電機
設置・加工所の整備・
復興地の法面保護

人が通れるスロープ
防潮堤の延長。港～田
浜間の道路の嵩上げ・
堤防工事までの間、土
嚢で堤防を高くしてほ
しい

8

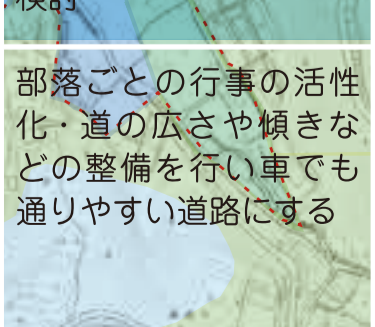
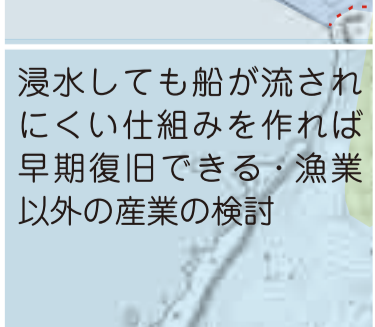
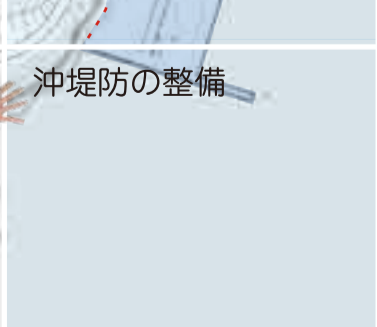


大企業の工場誘致

波をおさめる仕組み

共同で倉庫を設ける
緑地は畑として利用・
海の状況を確認しやす
く・堤防と道路との関
係の検討・高台移転地
から見える海の範囲の
検討

9



沖堤防の整備

浸水しても船が流され
にくい仕組みを作れば
早期復旧できる・漁業
以外の産業の検討

部落ごとの行事の活
性化・道の広さや傾き
などの整備を行い車
でも通しやすい道路に
する

巨大地図に書き込まれた 皆さんの 意見・要望

綾姫ホールに広げられた縦7メー
トル、横4メートルの地図に書き込
まれた皆さんの意見・要望を、左の
地図にまとめてみました。背景の青
い色が濃く塗られている場所ほど多
くの要望が寄せられました。



復興全般に関する要望

地図上に書かれた要望以外に
も、市や復興委員会への要望や、
綾里地区全体に関わる事につい
ての意見・要望などが挙がりま
した。

雇用の安定化・復興委員会の動
きを見えやすくしてほしい・土
地の買い取り価格を早く知りたい
・通学バスの時間帯の検討

防潮堤付近の意見・要望

防潮堤のすぐ内側の地区に
は、特に多くの意見や要望が寄
せられました。

綾里内で三次加工もすべき・鉄
骨造の工場を作る・避難道路を
兼ねた防潮堤・道路下の利用・
防潮堤の基礎を地中深くまで
しっかり・防潮堤内綾里川の幅
を広げ停留場として利用・2次
堤防の上に防潮林を整備・シ
ミュレーションで浸水高さなど
を調査・避難タワー・港から中
学校までの避難路整備



復興に関する パネルの展示を 行いました。

今回のワークショップでは、巨大地図とともに、綾里地区復興委員会のこれまでの取り組みや市の計画についてを紹介するパネルの展示を行いました。パネルは首都大学東京饗庭（あいば）研究室が作成しました。

パネルは、これまでの復興委員会の紹介や綾里地区の分析（前回のまちづくりニュースに掲載した内容です）をはじめ、これまでに決まったことを載せた地図、これまでに市に提出した提言・要望を載せた地図、大学が5月に綾里地区を調査した際に見つけた綾里の良い所（資源）を載せた地図などを用意しました。

ワークショップでは、パネルの内容を説明しながら住民の皆さんにいろいろな意見を伺いました。

パネルの説明 ワークショップで展示したパネルの中から、綾里の地図を使った3種類のパネルを紹介します。

1. 資源図

5月に首都大学東京で行った現地調査を元に、綾里地区の復興計画に使えるような良い所（資源）を載せた地図です。

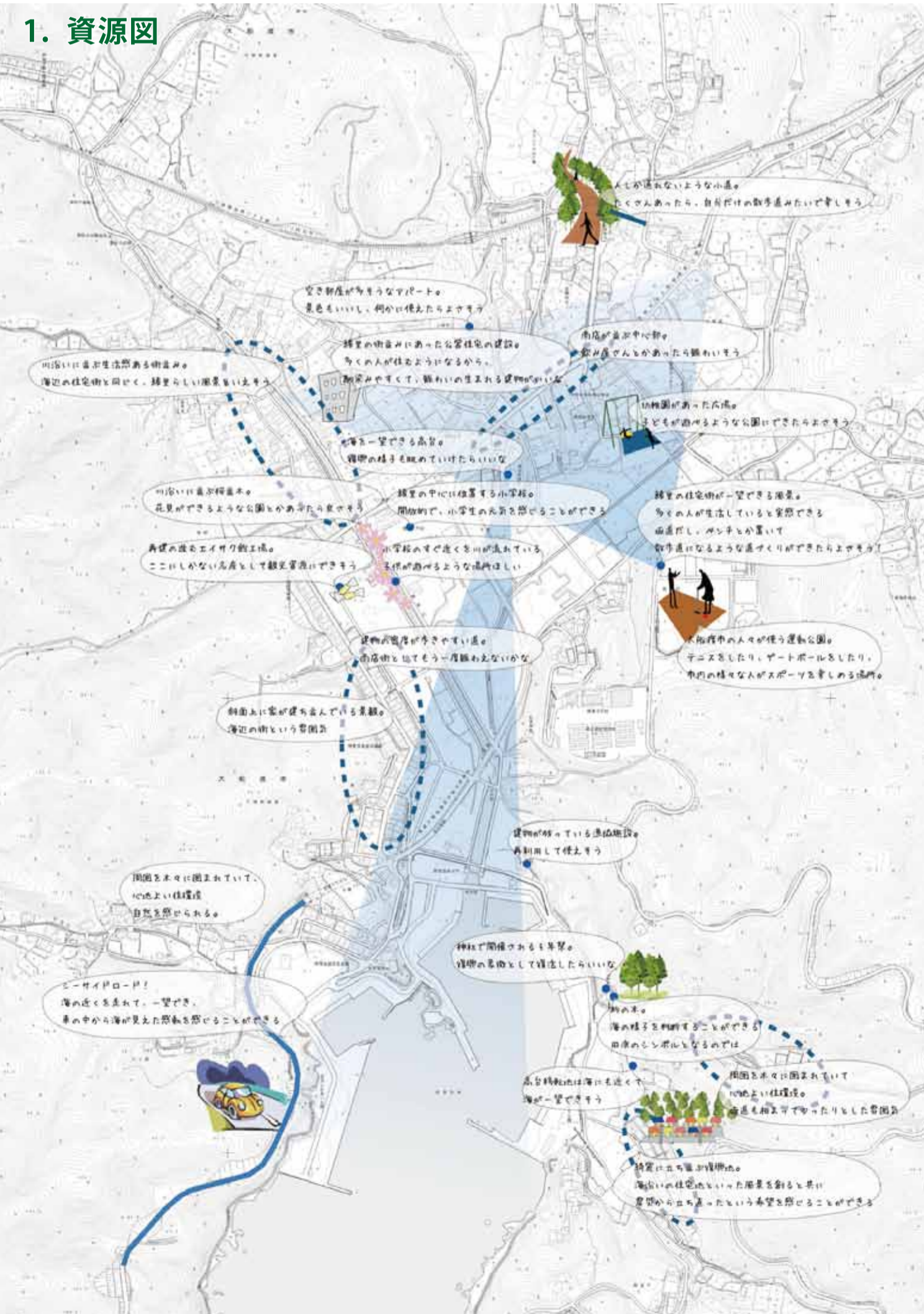
2. 要望書

2012年3月に綾里地区復興委員会が市に提出した復興に関する要望書を基に、大学側で地図に各項目を記入したものです。

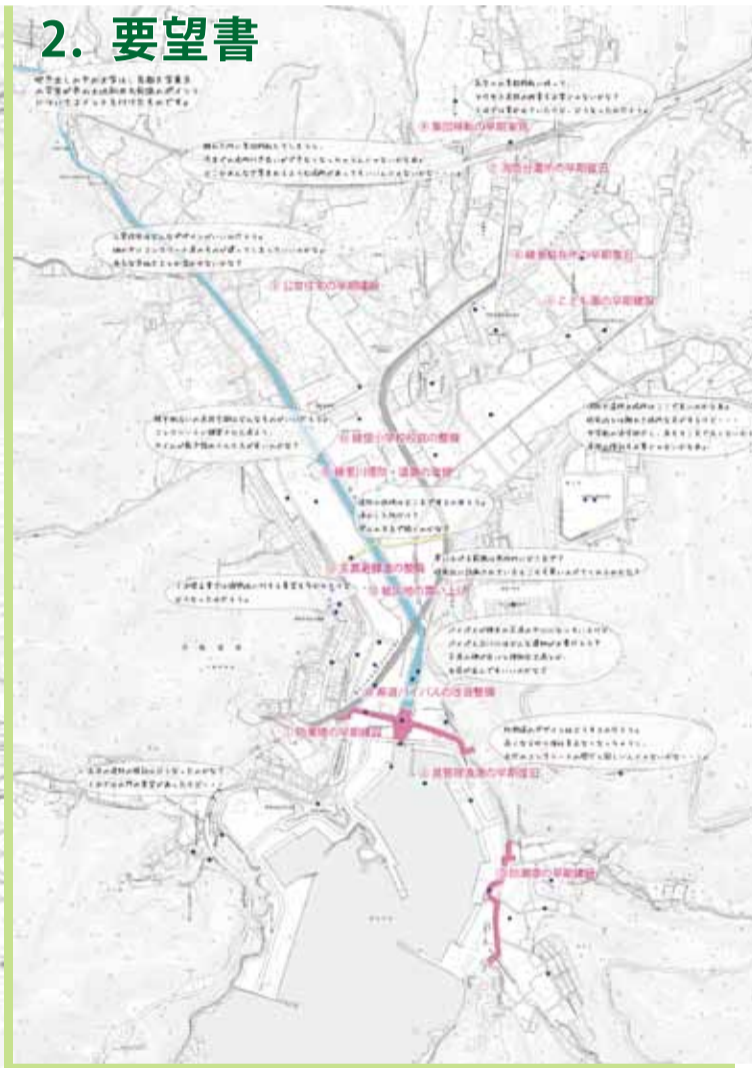
3. 決まったこと

大船渡市の復興計画の土地利用方針図を基に、大学側でさらに検討した方がよいと思われるポイントにコメントしたものです。

1. 資源図



2. 要望書



3. 決まったこと



わたしたちの綾里を知る

過去の津波からみる

綾里の復興

下の表は1896年の明治三陸津波と1933年の昭和三陸津波の被害状況を表したものです。

この表から、明治の時の方が津波の高さは高かったにも関わらず、流在家屋の数が多いことがわかります。これは、人口の増加や生産施設の増大に伴って津波危険地区内の居住者が増えたことを意味しています。しかし、その家屋の被害の割に被害者が少ないのは、地震によって津波を察知し、適切な避難が行われたためです。

また、昭和三陸津波の時の復興計画では、「高台移転の際、住民がそれぞれ分散して移動することを考えていたが、海辺に市街地を作り住民と一緒に生活してきたという長い歴史があるということから、分散しては不自由とし、当初の予定では60戸分の敷地造成量を変更し、7000坪で146戸分(1戸当たり50坪ほど)を建設した(港区)」とあります。

昭和三陸津波の時の復興地は今回の震災でもあまり被害は大きくなく、過去の教訓が活かされていると言えます。今後、さらに災害に強いまちとなるために、復興計画を進めていく必要があるのではないのでしょうか。

表) 過去の津波の被害データ

	明治三陸津波 (1896)			昭和三陸津波 (1933)				
	波高	死者	流失戸数	波高	死者	流失戸数	浸水家屋	移動戸数
綾里全体	-(不明)	1347人	186戸	-	94人	-	269戸	-
港	12.57m	398人	80戸	9m	62人	117戸	117戸	146戸
岩崎	-	-	13戸	-	1人	19戸	31戸	-
石浜	-	154人	28戸	9m	7人	29戸	29戸	20戸
田浜	11m	349人	58戸	7.7m	1人	37戸	37戸	18戸
小石浜	-	-	-	-	4人	-	13戸	-
砂子浜	-	-	-	-	1人	-	2戸	-
白浜	25.6m	175人	30戸	18.6m	18人	34戸	34戸	15戸
野々前	8m	33人	5戸	-	-	-	6戸	-

航空写真より街の変化を見る。昭和8年の航空写真は、昭和三陸津波が襲来した年のものであり、昭和22年の航空写真は、復興後のものである。特に変化が見られるのは宮野地区の様子であり、以前は森のあった場所を開発したように思われる。

写真では分かりにくいですが、高台移転地(復興地)が昭和22年では確認でき、住宅地が大きく変化しているのが分かる。また、港湾も整備されており、それに伴い地形も変化している。

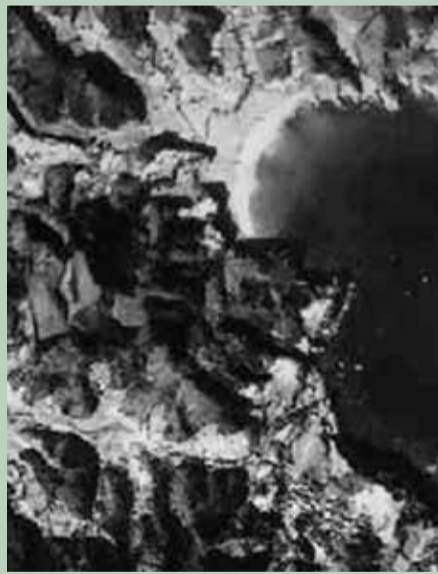
今回の震災復興では、過去の綾里の復興を参考にしながら、街並を考えることが一つ重要であると考えます。

参考文献・内務大臣官房都市計画課「三陸津波に因る被害町村の復興計画報告」、建設省国土地理院「チリ地震津波調査報告書」、山口弥一郎「津波と村」、google

一九三三年(昭和八年)



一九四七年(昭和二十二年)



二〇一一年(平成二十三年)



小石浜

砂子浜

野々前/白浜

港/岩崎/宮野/野形/田浜/石浜